

農業科3年生（野菜専攻）が、メロン生産者と銚田地域農業改良普及センターを訪問しました。

～銚田地域のメロン栽培及び銚田地域の農業について～

令和4年7月7日

農業科3年生（野菜専攻）の生徒が、銚田地域のメロン栽培と銚田地域の農業について調べるために、銚田市でメロンのつぎ木苗を生産している山口正重様（6月22日（水））と銚田地域農業改良普及センター（6月23日（木））を訪問しました。

1 山口様から聞いたこと（数値は、参考値となります）

(1) つぎ木苗生産を始めたきっかけについて

- ・2000年頃に、地域でメロンのつる割れ病が発生して甚大な被害を与えていた。つる割れ病を克服するためにつぎ木苗を導入する必要があった。それ以降、銚田地域のメロン栽培を発展させるために接ぎ木苗生産に取り組んでいる。
- ・自分自身でも毎年メロン栽培をして、その年にあわせてメロン栽培のノウハウを生産者に提供している。

(2) イバラキングの長所と短所について

- ・長所として、低温肥大性がよく、促成栽培で大玉になる。茨城県でしか栽培できない品種なので、今後さらにブランド化を進められる可能性がある。
- ・短所として、うどんこ病に弱い。水管理が難しい。また、肥大期に、1日当たりの朝昼の温度差があると、果実が割れるので注意が必要である。

(3) イバラキング栽培のポイントについて

- ・定植後のポイントとして、地温は最低15℃以上を保つ。
- ・3月頃に定植する場合は、病気予防のために、ハウス内の温度を下げないで、湿度を抜く（下げる）。
- ・地這い栽培では、土壌中の水分は自然条件のままであり、例えば、雨の場合は、多くなることを考慮する。
- ・ハウス内の換気は、空気が流れるようにして、湿度を上げすぎないようにする。
- ・交配から20日～25日までのネット形成期は、雨降りが3日続くと、ヒルネット（果実が割れる）が発生しやすい。対策として、栽培期間中は、天気予報を確認して、雨が続きそうな場合は、1週間前くらいから水を切り、発散作用で株をしておらせて、果実に水分が行かないようにする。
- ・ネット形成期に悪天候の場合は、ハウス内の湿度を抜く（下げる）必要がある。
- ・イバラキングのシェアは、JA銚田が90%。10%は茨城町など。JA茨城旭は、イバラキングは栽培していない。オトメ、アンデスが主で、光センサーで糖度を保証している。
- ・令和4年は、天候がイバラキングの栽培に適しておらず、令和3年度に比べて秀品率が低下した。

(4) メロン栽培のポイントについて

- ・1～3月は、冷たい風がハウスに入らないように換気する。
- ・メロンの最適環境は、地温20℃、外気28℃、湿度40～50%である。
- ・病気が発生した場合は、原因がある。「湿度を上げすぎた」「低温にさらした」「苗にストレスがかかった」など、管理方法を見直して、原因を明らかにして、次年度の栽培のためにノウハウを積み上げていく事が大切である。

1 訪問のようす



2 生徒と撮影（撮影時のみマスクを外しました）



2 銚田地域農業改良普及センターで聞いたこと（数値は参考値となります）

・地域普及第一課長 榎原 智子 様、同技師 三輪 龍ノ介 様

(1) 銚田市のメロン作付け状況等（JA茨城旭村とJAほこたの合計）について

- ・令和4年の栽培面積は、225.7haで、前年より9.9ha減少。栽培戸数は、309戸で、前年より3戸減少。
- ・JA茨城旭村では、「オトメ（緑）」「アンデス」「クインシー」「エルソル（緑）」などの品種を栽培。
- ・「エルソル」は、今年が部会に本格導入2年目の新品種で、6月上旬から下旬の約1カ月が出荷適期である。
- ・「エルソル」は、甘みの中にスッパリ爽やかな後味を感じる今までにない味で、遅い作型用品種である。これまでの晩生時期の品種の「アンデス5号」は、おしりの部分が割れることや、「初夏のクインシー」の黄化症状等の問題があり、栽培しやすい「エルソル」に変更している生産者が増加している。
- ・JAほこたでは、「イバラキング（緑）」「アンデス（緑）」「なだらうレッド（赤）」などの品種を栽培。
- ・JAほこたでは、「アンデス」「クインシー（赤）」から「イバラキング」に切り替わってきている。
- ・イバラキングの令和4年の栽培面積は、41.8haで、前年から3.0ha増加した。

(2) 令和4年春作のメロンの作柄状況について

- ・令和4年はメロンの生育に厳しい気候条件であった。
- ・冬は日照に恵まれたが気温が低く、12月定植は活着不良の圃場も見られた。
- ・4月上旬頃収穫のメロン栽培について、交配期やネット発生期となる2月の夜温が低くなったので、着果不良や果実肥大不足、ネット形成に乱れが生じた。
- ・4月中旬～5月上旬頃収穫のメロン栽培は、ネット発生期となる3月上旬、3月下旬に曇天が続いたことと、3月22日の降雪の影響により、メロンのネット形成に乱れが生じた。
- ・令和4年は、低温や曇天が続いたことにより、小玉や外観品質が良くないものが多く見られた。
- ・令和3年は、気候条件に恵まれて作柄が大変良かったが、令和4年は、前年より出荷量は減少し、上位等級の発生率も低い状況であった。

(3) イバラキングについて

- ・低温、低日照時にヒルネットが出やすい。農業改良普及センターでは、ヒルネット防止対策として、ハウスメロン栽培のハウス環境（温度、湿度）の「見える化」に取り組んでいる。

(4) 銚田地域の農業について

- ・メロン栽培からサツマイモ栽培へ転換する生産者は、ほとんどいない。
- ・複合経営の組合せとしては、メロンと葉物、トマト、ネギなど、または、メロンとサツマイモなど。
- ・葉物生産者は、複数の種類（ハウレンソウ、ミズナ、コマツナ）を栽培してリスクを分散している。
- ・銚田地域の農業の強みとして、平坦で広大な土地、温暖な気象条件、やる気のある生産者が多い、JAの切磋琢磨による品質向上、任意出荷組合が多くあることなどがあげられる。
- ・令和2年市町村別農業産出額について、1位が宮崎県都城市、2位が愛知県田原市、3位が北海道別海町、4位が茨城県銚田市、5位が新潟県新潟市の順となり、上位5市町は前年同様であった。
- ・主要部門の産出額1位の市町村について、米は新潟県新潟市、豆類は北海道音更町、いも類及び野菜は茨城県銚田市、果実は青森県弘前市、花きは愛知県田原市、工芸農作物は沖縄県宮古市、肉用牛及び豚は宮崎県都城市、乳用牛は北海道別海町、鶏卵は鹿児島県出水市、ブロイラーは宮崎県日向市。

令和2年市町村別農業産出額（推計）【https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/nousan/r2/index.html】

1 訪問のようす



2 銚田地域農業改良普及センターの方々と撮影

